

巖美地域 まちづくりだより

令和2年2月1日発行 第17号



発行者：巖美地域活性化推進協議会
(会長 小岩次男)
(事務局)
〒021-0101
一関市巖美町字沖野々116-6
一関市巖美市民センター内 鈴木
TEL29-2205 FAX29-2251

～山谷分館のこれからを考える～

甚大な被害をもたらした平成20年6月14日の岩手宮城内陸地震の後、山谷分館は避難所として整備され、震災によって避難を余儀なくされた方々の仮の住まいとなり、世帯ごとの居住スペースや風呂場などが設置されました。その後、避難が解除されたことにより避難所の役目を終えたため風呂場などは撤去され、現在の山谷分館では避難所であったことをはかり知ることは難しくなりました。

巖美地域活性化推進協議会では、昨年度より震災についての事業や震災の記録や記憶の募集を行い、岩手宮城内陸地震を後世に語り継ぐための方向性を探っている段階ですが、その一つの手段として、かつて避難所として使われていた山谷分館の活用を地域の皆さんと検討していきたいと考えています。震災の写真や思いなどの、記録や記憶も継続して募集しておりますので、併せてご協力をお願いいたします。



仙台門松視察研修に行ってきました

1月21日(火)に毎年巖美市民センターに門松を設置してくださる門松伝承会の皆さんと人生大学文化伝承教室の皆さんの合同視察研修会として、仙台門松の視察研修を行いました。仙台門松も門松伝承会の皆さんが作る門松と同じ鳥居型の門松だったことから、仙台門松の研究と復元に取り組んでいる仙台市博物館に連絡したところ、学芸員の方も世喜の一酒造などの門松を作っている巖美の方にお会いしたいと思っていたとのことで、仙台門松についてお話をさせていただけることになりました。

仙台市縄文の森広場の門松を見学後、仙台市戦災復興記念館に設置してあるレプリカの門松の前で学芸員さんから門松の材料の産地や作り方、復元までの道のり、謂れなどを説明していただきました。その後お互いに作り方や設置の際の神事のことなどについて質問し合い、気が付けば1時間ほどが経過していました。鳥居型の門松についてはまだまだ解明されていないことも多いそうですが、江戸時代の伊達藩に思いを馳せるひと時でした。



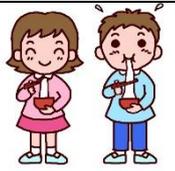
仙台門松に興味津々



熱心に聞入る皆さん



昔ながらの小正月行事



1月11日(土)に巖美幼稚園、巖美小学校の児童生徒さん、保護者の皆さん、地域の方々合わせて約90名が集まり、小正月行事を開催しました。

子供たちは地域の方々に教わったり、お父さんお母さんに手伝ってもらったりしながら「餅つき」「繭玉ならし」「きんこならし」「おさくだて」を行いました。子どもたちは昔から伝わる行事の体験や、地域の方々との交流を楽しんでいました。

体験の後は、お楽しみのおいしいお餅をお腹いっぱい食べました。

お餅やみずき、かつの木など数日前から準備していただいた地域の皆様、誠にありがとうございました。

餅つき、楽しい〜



みずきに餅を巻き付けて、繭玉ならし



小刀でかつの木の皮を削って「きんこ」作り



栗の木に「きんこ」をならします



米と畑作の豊作を願う、おさくだて



おいしいお餅、いただきます